

ロイヤル・アカデミー展開幕に向けて

2015年02月20日

ロイヤル・アカデミー展が開幕してから早くも2週間が経過しました。新米学芸員0が副担当を務めております。今回初めて本格的に展示設営作業に携わったので、ここでは展覧会が作られていく展示室内の様子をお届けしたいと思います。実はこのロイヤル・アカデミー展はオーストラリアからの国際巡回展。日本では石川、東京、静岡と巡ってこの愛知県美術館が最終会場です。静岡の展示は1月25日までということで、作品の到着を待つ間愛知県美術館では展示室内のディスプレイが進められていました。



今回は布を使って壁を装飾していきました。ちなみにこの赤茶色は実際にロンドンのロイヤル・アカデミーで使われている壁と同じ色。このようにして展覧会のイメージに即した雰囲気を作っていきます。約20人の作業員さんたちの手にかかれば短時間で完成。



どこにどの絵を掛けるかがすぐに分かるように、図録から図版をコピーして壁に張っておきます。これで展示の準備は万端。同時にこの頃、静岡市美術館では作品の梱包、および撤収作業が行われていました。私は早朝からの作業に備え、この日の夜から静岡入り。

静岡から名古屋間の作品輸送および愛知県美術館の展示作業は、ロンドンのロイヤル・アカデミーからクーリエとして来日した学芸員のヘレナさん、作品管理を担当しているエドウィナさんの立会いのもとに執り行われます。お2人ともとても気さくで良い方たちでした…！展覧会のオープニングから6日前、作品を積み込んだトラックは静岡市美術館から一路、愛知県美術館にやってきました。（トラックに同乗した私は途中、浜名湖のサービスエリアにてうなぎパイもちちゃんと購入しました）



しかし、作品を展示室に運び込んでもすぐに作業に取りかけられるわけではありません。場所を移動したことによって温湿度も変化するため、シーズニングといって暫くその場に置いて慣らすという工程が必要になります。



展示作業は翌日午後から再開。専用のクレート（木箱）から取り出された作品は一点ずつ損傷がないか、クーリエたちによって入念なコンディションチェックが行われます。今回巡回先についてまわって

いる修復家の方は、コンディションチェックをするばかりではなく、額縁の欠けなどがあればクーリエの許可のもとその場で修復してくれました。このようにして96点の作品を3日間かけて点検していきます。（先輩学芸員からは当然との声が聞こえてきそうですが、基本的には終始立ちっぱなしです）



点検を終えた作品からどんどん美術作品の輸送を専門とする業者さんの手によって定位置へと運ばれていきます。この展覧会の第一会場である石川県立美術館から同じスタッフが作業を担当しているため、作品の取り扱いについては誰よりも熟知している実に頼れる存在なのです。かなり重さのある大理石で出来たヴィクトリア女王の胸像も、見事な連携プレイによって着々と彫刻台に乗せられていきます。



最終的にはロイヤル・アカデミー側から指定された照度に従って（絵画は 200 ルクス、版画は 70 ルクスまでと暗め）照明を調整し、現在はこのようになっています。照明や壁の色が重厚な雰囲気を作り出すのに一躍かっているのが、お分かり頂けるかと思います。

そもそもロイヤル・アカデミーとはロンドンに 1768 年に設立された、芸術家を支援するための芸術機関。当時、芸術家が作品を発表する場が整っていなかったイギリスにおいて恒常的に展覧会を開催するということを取り決め、また初めて美術学校の運営を開始したロイヤル・アカデミーは、現在の英国美術の礎を築いたといっても過言ではない存在なのです。今回は日本でその所蔵作品を公開する最大規模の展覧会となります！是非足をお運び下さい。

(N.0)